

口永良部島火山ガス組成変化

2014年12月10日にセスナ機を用い、口永良部島噴煙の火山ガス組成観測を実施した。観測条件が良好ではないため、定量出来たのは $\text{CO}_2/\text{SO}_2=1.2\pm0.2$, $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}=10\pm1$ のみであった。噴火以前と比較すると、 CO_2/SO_2 には変化がないが、 $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ は数倍に増加しており、熱水系の関与の低下が原因と推定される。

表 1 口永良部島新岳火口火山ガス組成

Date	CO_2/SO_2	$\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$
2009/4/6	1.1 ± 0.2	2.5 ± 0.5
2009/11/28	1.0 ± 0.2	2.5 ± 0.3
2011/1/27	1.0 ± 0.2	1.9 ± 0.2
2014/12/10	1.2 ± 0.2	10 ± 1